

相談活動レポート(2008)

■電話相談の状況

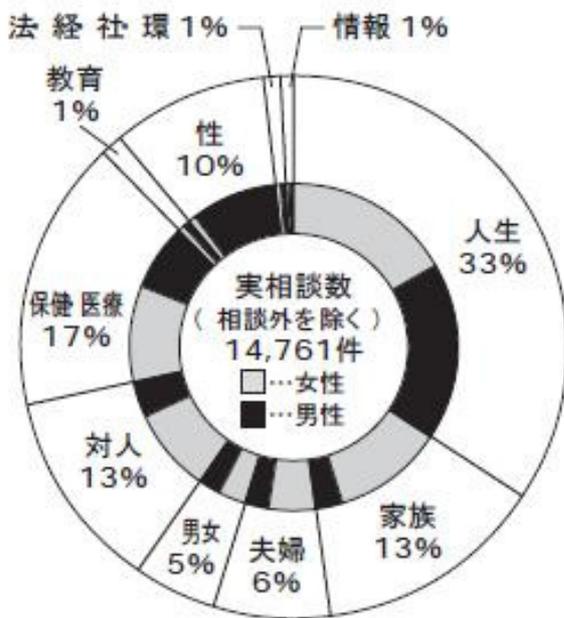
実際に相談を受けた件数	----- 14,761件	1日平均40.3件
相談ではない通話も入れると	----- 16,689件	1日平均45.6件
無言で切れた電話を含めると	----- 20,863件	1日平均57.0件

2008年の実受信件数は、14,761件で昨年より427件増えている。受信体制強化プロジェクトの働きかけにより、受信件数も多くなった。

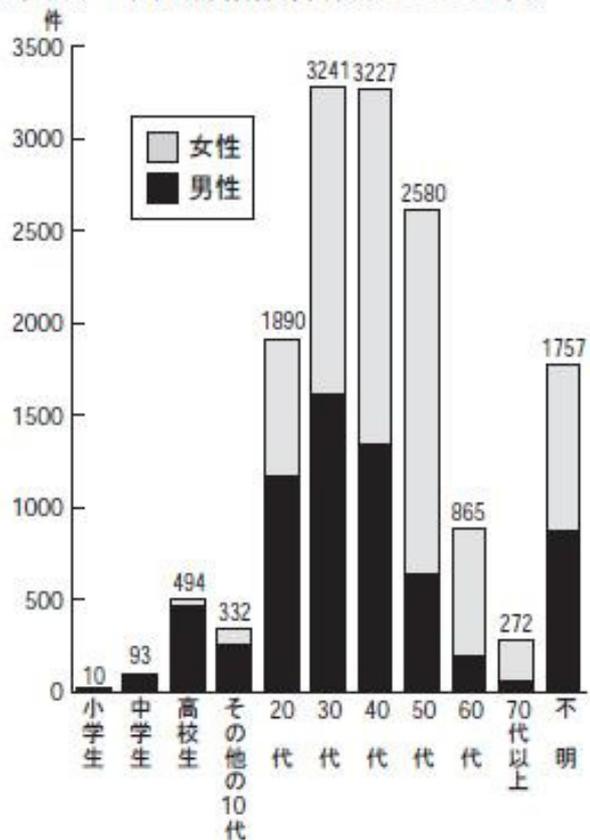
(図1)内容別・性別受信状況は昨年と比べ、大きな変化は見られない。

(図2)年代別相談件数では昨年より若い世代は減少しているが、50代が305件、60代が200件、70代が28件増加している。最近の深刻な経済不況のなか、リストラや人間関係の悩みをかかえ、また、避けられない老いと病に直面し、時には絶望し、精神面に深い痛手を受けた人の相談も多い。

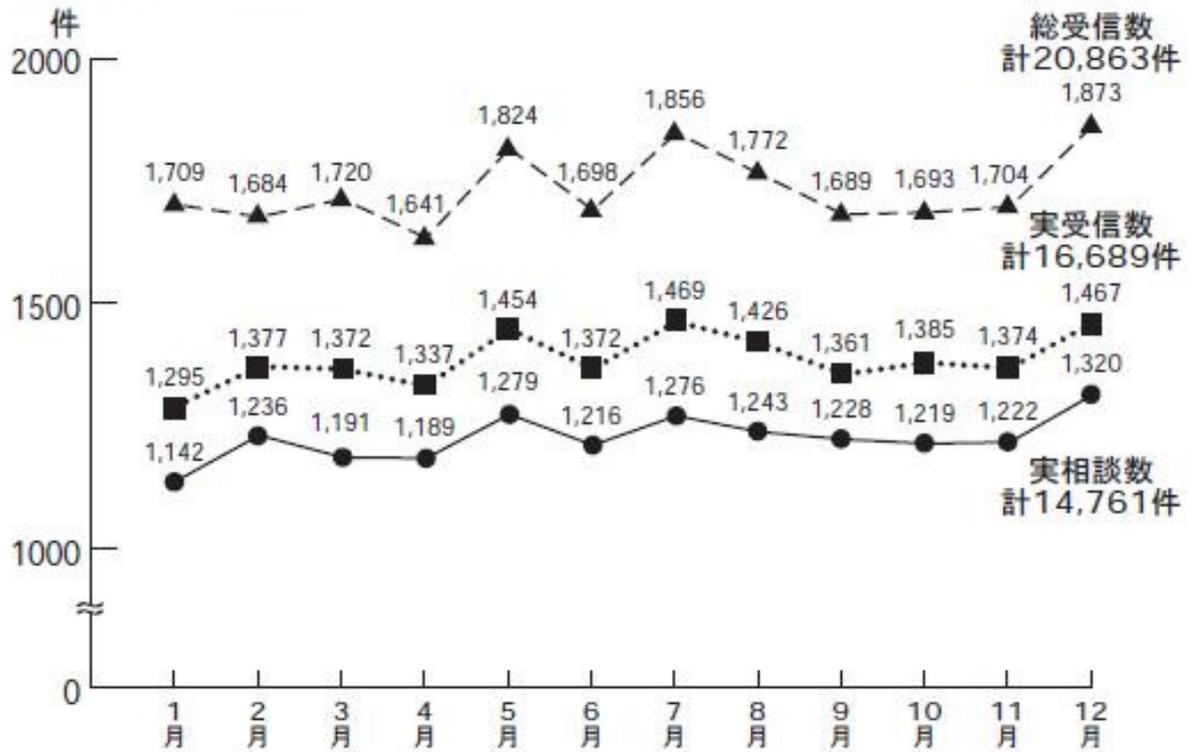
(図1) 内容別・性別受信状況 (2008年)



(図2) 年代別相談件数 (2008年)



(図3) 月別受信件数(2008年)



(図3)において、5月・7月・12月に相談件数が増加している。5月は例年増加傾向であるが本年は7月・12月も増加している。日頃サポートを受けている機関(医療・福祉・カウンセリングなど)の予約がとれず、行き場を失った人々が窮状を訴えた内容が増加していた。(表1・表2)において、内容別には男女とも人生についてが最も多いが、女性は医療・保健の相談も多く、自分自身も含めた家族や介護の悩みも多い。年代別では20代から50代の働き盛りの人々からの相談が多くこれも経済不況の影響があるのかもしれない。日頃、研修を受け訓練を重ねた相談員が使命感を持ち、献身的に支えることで、自殺危機を乗り越える人が一人でも増えることを願って止まない。

(表1) 内容別自殺志向件数(2008年)

内容	男性	女性	計
人生	328	391	719
家族	30	81	111
夫婦	37	41	78
男女	5	26	31
対人	22	34	56
保健・医療	145	294	439
教育	2	7	9
性	17	4	21
法・経・社・環	11	7	18
情報	3	3	6
その他	14	3	17
計	614	891	1505

(表2) 年代別自殺志向件数(2008年)

年代	男性	女性	計
小学生	0	1	1
中学生	5	1	6
高校生	12	4	16
その他の10代	9	10	19
20代	85	123	208
30代	163	244	407
40代	185	200	385
50代	50	171	221
60代	25	36	61
70代以上	11	14	25
不明	69	87	156
計	614	891	1505

■フリーダイヤル自殺予防いのちの電話

日本いのちの電話連盟が厚生労働省自殺防止事業補助金を受け取り組んでいる事業も8年目になり、2008年度も①自殺防止ネットワーク構築②相談員研修活動等推進③自殺防止相談窓口の普及啓発を三本柱として実施した。今年度の自殺予防いのちの電話は、4月から毎月10日に実施された。月1回とはいえ年間を通して行い、自殺予防に特化したフリーダイヤルを継続して設置した意味は大きいと考えられる。川崎いのちの電話では、推進委員会のメンバーとして連盟の事業実施に協力するとともに自殺防止相談窓口の普及啓発事業に取り組んだ。

●相談員研修

日 時	2008年8月30日(土)13:00～17:00
会 場	てくのかわさきホール
テーマ	「ロールプレイを含めた危機介入の研修」
講 師	加藤博仁氏 (吉備国際大学教授・埼玉いのちの電話元研修委員)

●フリーダイヤル自殺予防いのちの電話の実施

(4月より毎月10日8:00～11日8:00)

相談員数が減少しているなか、特別シフトをどのような形で組むかを検討し、相談員委員会、研修担当者会、事務局が協力して取り組みを進めた。24時間体制で209名の相談員が参加、昨年より多くの相談件数となり、そのうち自殺志向の相談は、実受信数の33.4%にのぼった。

受信件数

	日本いのちの電話 連盟47センター	川崎いのちの電話
実受信数	29,462件	609件
うち自殺志向	9,804件	191件)